■ システム仕様〔評消虎第26ー1号〕

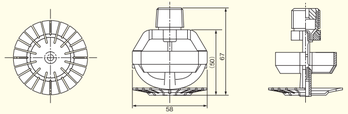
項目		仕様	項目		仕様
システムの方式		湿式	泡消火薬剤		水成膜泡3%型、泡第19～26号
閉鎖型泡水溶液ヘッド	種別	閉鎖型泡水溶液ヘッド（認定品）	泡消火薬剤混合装置	型式番号	特評第248号
	主な使用用途	特定駐車場（総務省令23号による）の駐車場 ※隣接部は所轄消防署との打合せが必要です。		泡消火薬剤貯蔵量※	144L以上（12ヶ×40L/min×10分×0.03）
				泡消火薬剤希釈容量濃度	3～4%
				流量範囲	36～480、650、1,300、3,000L/min
	取り付け方向	上向きタイプ・下向きタイプ		最大圧力損失	0.10～0.17MPa
	感度	高感度型　1種	試験装置	点検BOX	泡消火薬剤水溶液採取用の弁
	感熱体	グラスバルブ		末端試験弁	泡消火薬剤水溶液採取用又は圧力測定用の弁
	感知温度	68℃	設計開栓個数※		1～12個
	取付高さ	1.8～8.0m	加圧送水装置	放水量	480L/min以上（＝40L/min×最大12個同時）
	取付間隔	3mピッチ		水源水量	4.8m³以上（12個×40L/min×10分）
	放水圧力範囲	下限値0.35MPa、上限値0.80MPa		起動方式	閉鎖型泡水溶液ヘッド又は一斉開放弁の開栓により、流水検知装置が作動し、圧力空気槽に設けた圧力スイッチの動作と連動。
	放水量	下限値36.0L/min、上限値51.3L/min			
	放水密度	3.7L/min・m²以上			
	防護面積	9m²	非常電源		認定品、作動時間30分以上
流水検知装置		検定品、湿式（最低流量35L/min）	その他		・配管ラインに減圧弁を設けて、ヘッド圧力を一定とする。 ・ヘッド標準放射量は、40L/min（＝36L/min×1.1倍）とする。
減圧装置		減圧弁（評定品） 流水検知装置一次側に設け、ヘッド圧力を0.35～0.80MPaに調整する。			
二次側配管警戒状態		泡消火薬剤水溶液を加圧充水			

注）散水障害発生場所については、一斉開放弁（差圧開放弁）及び火災感知用ヘッドを組み合わせて使用すること。
※一斉開放弁（差圧開放弁）を使用する場合は、放水量と水源水量が変わります。

■ 閉鎖型泡水溶液ヘッド仕様

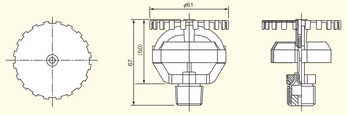
(1) バルブ型C68（標準、下向き）

項目		仕様
種別		閉鎖型泡水溶液ヘッド
型式		バルブ型C68、感知範囲2.1,呼称15（標準2.1、下向き、発泡倍率5倍以上）
認定番号		認評駐閉第26～1～1号
型式記号		YFH-C35P-68
標準使用圧力及び放射量		0.35MPa、36.0L/min
使用圧力及び放射量		下限値：0.35MPa、36.0L/min 上限値：0.80MPa、51.3L/min
取付高さ範囲		下限値：1.8m、上限値：8.0m
有効感知範囲		r2.1m
有効放射範囲		r2.1m
感熱体	種類及び作動温度	バルブ型、68℃
	種別	1種
使用泡消火薬剤		水成膜泡消火薬剤（国家検定合格品）泡第19～26号
質量		約140g



(2) バルブ型C68（標準、上向き）

項目		仕様
種別		閉鎖型泡水溶液ヘッド
型式		バルブ型C68、感知範囲2.1,呼称15（標準2.1、上向き、発泡倍率5倍以上）
認定番号		認評駐閉第26～2～1号
型式記号		YFH-C35U-68
標準使用圧力及び放射量		0.35MPa、36.0L/min
使用圧力及び放射量		下限値：0.35MPa、36.0L/min 上限値：0.80MPa、51.3L/min
取付高さ範囲		下限値：1.8m、上限値：8.0m
有効感知範囲		r2.1m
有効放射範囲		r2.1m
感熱体	種類及び作動温度	バルブ型、68℃
	種別	1種
使用泡消火薬剤		水成膜泡消火薬剤（国家検定合格品）泡第19～26号
質量		約150g



⚠ 安全に関するご注意

●安全のため、ご使用の前に、「取扱説明書」をよくお読みの上、正しく設置して、ご使用ください。
●この製品は消防法に定められた特定駐車場用泡消火設備に定められた構成機器です。他の用途には使用しないでください。
●特定駐車場用泡消火設備に用いる場合、定められた機器以外との構成はできません。
●この製品の取付け・調整・メンテナンスは、当設備を熟知した有資格者が必ず行ってください。

●規格・外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

ヤマトプロテック株式会社
本社　東京都港区白金台5-17-2　ホームページ http://www.yamatoprotec.co.jp
大阪・名古屋・札幌・仙台・さいたま・横浜・静岡・広島・尾道・四国・福岡・鹿児島／大阪工場・東京工場・中央研究所・関東物流センター・リサイクルセンター

●あらゆる防災設備・機器のご用命は下記へ……

ミックス
責任ある木質原料を使用した紙
FSC® C002022

05-039-1504D

特定駐車場用泡消火設備誕生

特定駐車場用泡消火設備

Closed Foam System CFシステムⅢ

今までの泡消火設備とくらべ
能力はそのままに設備はコンパクト。
構造はシンプルなのに
有事の費用対効果が大幅にアップ！
環境の世紀にふさわしい、
環境少負荷設計の新システム登場。

※CFシステムⅢは、日本消防検定協会の特定消防機器等の総合評価等を取得しております。
システム：評消虎第26ー1号
CFヘッド：認評駐閉第26～1～1号、認評駐閉第26～2～1号
泡消火薬剤混合装置：特評第248号

ヤマトプロテック株式会社

特定駐車場における新しい泡消火設備の法令が設けられました。

駐車場に設置される従来の泡消火設備に代わり、閉鎖型泡ヘッドを用いた設備が、これまでは**性能鑑定に基づき消防法施行令第32条の適用**において運用されていました。

平成26年3月27日（総務省令第23号）に特定駐車場において、閉鎖型泡水溶液ヘッド等を用いた泡消火設備（令第29条の4）に基づく、通常、用いられる**消防用設備等として認められました。（ルートB化）**

改正内容

認定評価　令第29条の4（ルートB化）へ
特定駐車場への設置が認められました。

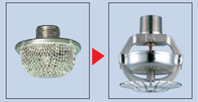
平成26年3月27日公布・施行

次世代の環境にやさしい少負荷設計
新しい特定駐車場用泡消火設備誕生

泡消火設備は引火性液体の消火を対象とし、駐車場などに設置します。従来の泡消火設備では、こうした空間で火災範囲を集中消火することができず、その危険性から必要以上の泡薬剤を散布してしまうため、環境への負荷が懸念されていました。また、設備も大規模で複雑なためコスト面、施工面、管理体制、メンテナンス等、膨大なエネルギー投下が必要でした。そこで、ヤマトプロテックにて新しく開発した特定駐車場用泡消火設備『CFシステムⅢ（Closed Foam System）』は、速動型の高感度ヘッドにより初期の小規模有事時点での火災箇所のピンポイント消火を実現。火災を最小限に抑え、無駄な泡薬剤の散布も最小限に抑えられる環境にやさしい設計となっております。また、設備のコンパクト化・構造のシンプル化を従来性能をそのままに実現した新しいタイプの次世代泡消火設備です。

「CFシステムⅢ」は、速動型の高感度ヘッドを採用することで、従来の泡消火設備と同等以上の性能を実現した、新しい消火設備です。

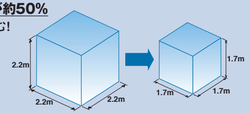
日本消防検定協会の総合評価承認済です。



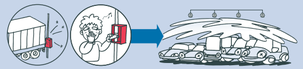
▲現行の泡ヘッド　▲CFヘッド（下向き）

特長1　泡消火薬剤の貯蔵量や水源容量が少なくて済み、スペースの有効活用ができます。

水源容量が約50%
少なくて済む！

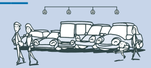


特長2　イタズラなどによる誤放射が防止できます。

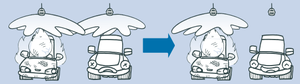


CFシステムⅢなら——

完全自動消火ですから
人為的なミスがありません！



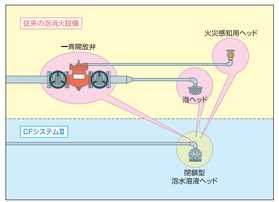
特長3　ピンポイント消火でムダがない。



火災に無関係な車両への被水が少なくなります。

従来の泡消火設備との比較

『CFシステムⅢ』は、従来の火災感知用ヘッド・一斉開放弁・泡ヘッドの機能を1個の閉鎖型泡水溶液ヘッドで行います。



■『CFシステムⅢ』導入にあたっての7つの ポイント

1.環境にやさしい
次世代の新基準

21世紀は環境の世紀といわれています。ヤマトプロテックは『CFシステムⅢ』を通じて、あらゆる事業活動において、資源の有効活用、合理化、エネルギーの最適化をバックアップしていきます。
使用する泡消火薬剤アルファフォーム310Rは、PFOS規制に対応済。

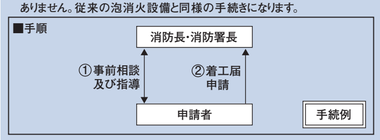
2.小規模設計
消火性能をそのままに

消火能力をそのままに、小規模設計。感知・泡ヘッドの一体化によって、早期有事感知とピンポイント消火を達成したため、従来の貯蔵のタンクと**水源量を1/2にコンパクト設計することが可能**になりました。

■設置手続について

●設置する場合所轄消防署への特例申請（消防法施行令第32条）は必要ありません。従来の泡消火設備と同様の手続きになります。

■手順



3.シンプル施工
感知と放水が一体化した

新ヘッド開発で感知ラインが放水ラインと一体化したことで、従来の感知ラインの複雑な配管が不要となり、施工が容易となりました。また、貯蔵タンクと水源確保もコンパクトになり、手動起動弁もなくしたシンプル施工を実現しました。

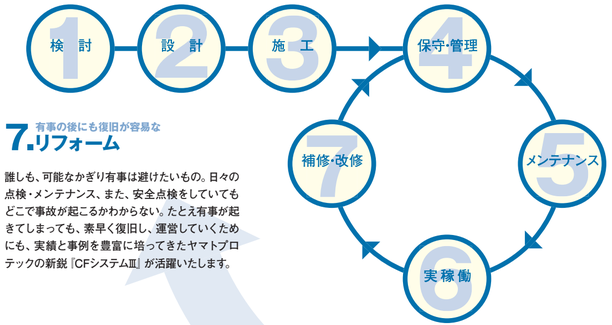
4.簡単保守・管理
安心の実績がバックアップ

消火実験を重ねてきた当社の徹底した品質管理のもと、豊富な事例と実績で事業主様に安心と信頼を提供します。設備がシンプルなため、保守・管理がいたって簡単です。

5.少ない点検箇所
メンテナンスのミニマム化

シンプルな設備と機器構成のため、点検箇所が少なく、時間も手間も従来より省力化できます。手動起動弁をなくしたので、シンプルらくらくメンテナンスを実現。

▲火皿2m²の実験



7.リフォーム
有事の後にも復旧が容易な

誰しも、可能なかぎり有事は避けたいもの。日々の点検・メンテナンス、また、安全点検をしていてもどこで事故が起こるかわからない。たとえ有事が起きてしまっても、素早く復旧し、運営していくためにも、実績と事例を豊富に培ってきたヤマトプロテックの新鋭『CFシステムⅢ』が活躍いたします。

■設置事例

▲ポンプ

▲流水検知装置

▲混合器

▲閉鎖型泡水溶液ヘッド（上向き）

6.早期発見、ピンポイント消火
消火の大原則！

火災拡大時における最大放射面積は、火災箇所を中心に10m²。感知・泡ヘッドの一体化によって、初期の小規模有事段階で速動型高感度の感知スピードで放射。しかも、火災箇所のみの作動ですばやくピンポイント消火。有事の費用対効果を大幅にアップさせました。

▲駐車場におけるエンジンルーム火災

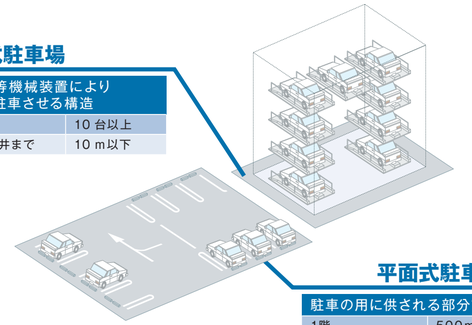
▲駐車場における室内火災

▲駐車場における荷台火災

特定駐車場とは

機械式駐車場

昇降機等機械装置により車両を駐車させる構造	
収容台数	10台以上
床から天井まで	10m以下

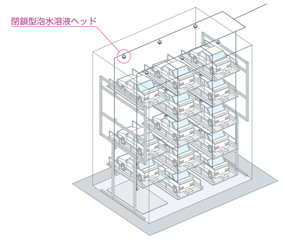


平面式駐車場など

駐車の用に供される部分で、	
1階	500㎡以上
地階、2階以上	200㎡以上
屋上	300㎡以上
床から天井まで	10m以下

『CFシステムⅢ』は、総務省令第23号の第4条　単純型平面式泡消火設備、第8条　一斉開放弁泡ヘッド併用型平面式泡消火設備、第9条　機械式泡消火設備に対応しています。

■ 機械式駐車場におけるヘッド設置



■ 特定駐車場用泡消火設備 構成図（例）